

30人の議員数多すぎないか？

～ 国府地区市政こん談会～



ひざを交えて、地区の問題を話し合った

東道路の計画が進む国府地区で二月十六日、市政こん談会が地区公民館で行われました。地元から住民約二十五人が参加、市からは小笠原市長をはじめ関係課長が出席し、地区のかかえる問題について熱心に話し合いを行いました。

討議内容は：

まず、あいさつに立った市長が、「皆さんの一番の関心である地区公民館は、五十八年度建設を予定しています。比江山の残地については、中小企業大学の誘致がありますが、決定はなかなか難しいようです。」

高度成長時代から福利厚生事業にたいへん力を入れてきましたが、これからは国の援助も厳しくなると思われ、予算の賢い使い方に努力していきたい」と述べ、討議に入りました。

■東道路ができることによって、この地区の環境が一変し、県にとつては大きなメリットになると思うが、地元の被る迷惑を良く考えて、周辺整備を検討して欲しい。

■どのような影響を与えるか、皆さんといっしょに考え、県の補助を受けて誠心誠意対処してゆきたい。

■南国市の行政改革はどのように。昭和五十一年から、いろいろな改革に取り組んできましたが、何年か過ぎるとなかなか辛抱できなくなってきました。改革をする

となると、総論では賛成が得られるが、各論になると反対という声が多く話が進まなくなるといふ問題点もあります。

これからは、負担を上げてでも手厚い行政をしていくか、安上がり行政にするかの二つの方向があると思いますが、安上がりの行政となると、皆さんに辛抱していただかなければならない部分も多く出てきます。

ムダをなくするため、外部から

の率直な意見をお願いします。

■黒滝でのし尿処理は、河川を汚染しているのでは。

■水質検査は定期的にやっているが、問題はでていない。応急的な処置として現在、複合グリーン方式という方法で、かなり浄化した処理水を浸透させています。しかし、いつまでもこのような方法を続ける訳にはいかないことは承知しています。

■養鶏場の悪臭対策の進展は。

■対策としては移転が一番良い方法ですが、経営者にとつても生活があり難しい問題です。当事者も改善に向けて努力していますが、ともかく抜本的な解決策のメドがたっていないのが現状です。

■比江地区の史跡保存はどのように。

■国衛跡の調査は、五十八年度が発掘の最終年度にあたり、「政庁」がはつきり発見されれば国の指定を受けることができます。しかし、もし確認ができなかった場合は、市が保存することも困難ですし、田村遺跡も含めて総合的に指定が受けられるよう、まずは史跡の分布調査を進めていきたい。

■南国市の二十年、三十年後の姿はどんなものか。何か将来に向かって、みんなの英知を結集して未来の南国市を考えるような組織を作ってはどうか。それも行政の一

つの役目と思うが。

■考えには共鳴しますが、予算計上をして取り組んでいくことは難しい。文化、教育施策の面で、その精神を生かしていきたい。

■財政困難と言われる中、三十人の議員数は多くはないか。議員どうして予算の取り合いになっているという話も聞く。議員も「自らを制する」という気持ちで、定数を減らしてはどうか。

■市民一人当りの議員数から言う、決して多いとは言えません。定数を減らす意見は、議員の一部でもあるようですが、やはり市民、や議会の中から生まれてくるものであつて、市長がすべきではないと思います。

■国府小の前の県道は、制限速度が四十キロとなっていて危険だ。児童の安全のために良い方法はないか。

■校門の前は坂になっていて、制限速度を下げてあまり効果がないので、スクールゾーンを設けるよう働きかけています。

約二時間の話し合いで、東道路のメリットはわかっているものの、静かな地域が壊されるのではないかと不安が残っているようでした。また、若い男性から未来の南国市のために、今から何か方策を考えるべきではという意見が印象的でした。